

## 公開シンポジウム

# —全国学力・学習状況調査のこれまでとこれから— —経年変化分析調査と保護者に対する調査を視座として—

文部科学省が実施してきた全国学力・学習状況調査は、社会的インパクトの大きな調査です。毎年悉皆で行われる「本体調査」は、3年に1度程度実施される「経年変化分析調査」と「保護者に対する調査」で補完されます。

これまでの調査から、児童生徒と保護者のどのような実態が明らかになったのでしょうか。その重要なポイントは何でしょうか。

本体調査や補完調査の測定方法はどのように評価できるのでしょうか。

調査結果は自治体や学校でどのように利活用できるのでしょうか。

今後のCBT化の課題とは何でしょうか。

本シンポジウムは、こうした問いへの応答を試みます。

※公式ウェブサイト [<https://ds-efa.info/>] に関連情報をアップします。

主催：科学研究費助成事業 基盤研究B「グローバル世界を視野とする学力・非認知能力の効果的学校モデル」（2020-22年度／課題番号：20H01667）



## 日時と開催形式

2023（令和5）年3月6日（月）14:00-17:00

対面とZoom / 参加費無料 / 定員：対面 50名、Zoom 150名

## 会場

宮城教育大学（宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉149番地）5号館1階 FCR Lab.

## プログラム

### 14:00-14:10 趣旨説明

本図愛実（宮城教育大学教授）

・編著『グローバル時代のホールスクールマネジメント』ジダイ社、2021年



### 14:10-14:40 講演 I

全国学力・学習状況調査の成果と課題

—経年変化分析調査を視座として—

柴山直（東北大学教授）

・文部科学省 全国的な学力調査の  
CBT化検討ワーキンググループ委員  
・文部科学省 全国的な学力調査に  
関する専門家会議委員



### 14:40-15:10 講演 II

全国学力・学習状況調査の成果と課題

—保護者に対する調査を視座として—

浜野隆（お茶の水女子大学教授）

・「全国学力・学習状況調査」の  
個票データ貸与に関する有識者  
会議委員  
・著書『学力格差への処方箋』勁  
草書房、2021年



### 15:10-15:40 講演 III

全国学力・学習状況調査の利活用

—スクールリーダーに向けて—

田端健人（宮城教育大学教授）

・著書『IRT分析ソフト Easy  
Estimationによる全国学力・学習  
状況調査の検証と経年比較』パイ  
ディア出版、2022年



### 15:40-16:10 講演 IV

スクールリーダーのマインドフレーム

—効果量・フィードバック・集合的効力感—

原田信之（名古屋市立大学教授）

・ジョン・ハッティほか『スクー  
ルリーダーのための教育効果を  
高めるマインドフレーム：可視化  
された学校づくりの10の秘訣』  
北大路書房、訳者代表、2022年



### 16:10-17:00 質疑応答

## 申込方法

参加申込フォーム：<https://forms.gle/WEq2xMRGoo6987PG6>

※ フォーム送信後、Zoom情報を記載したメールを自動返信します。

問い合わせ：田端健人（研究代表）

〒980-0845 宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉149番地 宮城教育大学

TEL/FAX: 022-214-3522 / E-mail: [tabata-t@staff.miyakyo-u.ac.jp](mailto:tabata-t@staff.miyakyo-u.ac.jp)

公式ウェブサイト：<https://ds-efa.info/>

